

## 資料 1

# 新しい「第九」の魅力開発のために

— 4つの領域からのアプローチ —

### 1、音楽としての「第九」

- a、絶対音楽として、標題音楽として
- b、第一楽章から第4楽章までの流れを読む
- c、第4楽章の楽想を追う（7つの区分の意図を追う）
- d、歌う魅力、聴く魅力、心に残る響きとしての魅力  
（できるだけ多くの人の意見を集める）

### 2、文学としての「第九」（詩想としての「第九」）

- a、「第九」に使われたシラーの詩「歓喜に寄す」の解釈を巡っては、いまだ謎が多い。  
それを様々な角度から検討する  
\* 従来の「第九」の解釈は、思想面・哲学面にある盲点があった。それに、どう対処するか  
・ Seid umschlungen,    · Diesen Kuss der ganzen Welt    · 第3詩節全般  
  · 第4詩節4行部分
- b、ベートーヴェンは「第九」のために、大幅に書き直している。その意図を考える。
- c、第4楽章の詩想（ことば）の流れと楽想（曲想）の流れを突き合わせしてみる  
（詩に込められた感動と音楽に込められた感動のコラボレーション）

### 3、思想・哲学としての「第九」

ベートーヴェンは「哲学する音楽家」であった。「音楽宗教」を目指した。その角度からアプローチしてみる。

- a、「第九」受容をめぐるには、二つのパターンがある。  
A群：「自由・平等・博愛」のフランス革命の応援歌。「人類愛、兄弟愛」のオマージュ、  
平和と博愛の精神、連帯を呼びかける労働歌、フランス啓蒙思想、ヒューマニズム、  
—— より良い社会をめざす ——  
B群：人生の応援歌、苦境に追い込まれた人を励ます、苦悩を尽き抜けて歓喜へ  
宇宙のカンタータなど  
—— 一人一人の心に生きる勇気、生きる喜びを与える、  
人間としての尊厳の危機にどう立ち向かうか、いかにして上手に老いるか、最後  
を迎えるか、また、自己の存在感の希薄さにどう対処するかに応える音楽。
- b、「第九」が秘めている宗教性にどうアプローチするか  
「神無き啓蒙思想（科学文明主義、人間中心主義）」とどう向き合うか  
詩のフレーズ Seid umschlungen, · Diesen Kuss der ganzen Welt    · 第3詩節の解釈  
（藤井解釈では、この背景に、ドイツ神学、ルター思想を見るが……）  
· Froh, wie seine Sonnen fliegen durch des Himmels prächt'gen Plan

### 4、時代と共に生きる「第九」

- a、これまで「第九」は時代の中で、いろいろ持てはやされてきた。現代という時代、現代という  
時代の人間状況の中での「第九」をどう見るか、
- b、